



①講演会終了後、市民と握手を交わす横田さん夫妻
②署名を夫妻に手渡す鈴木委員長
③多くの市民が署名に協力
④人権の花であるひまわりを川崎小学校の児童が育てて会場を飾った
⑤会場内では拉致被害者救出活動のシンボル「ブルーリボンバッジ」が販売され300個が完売。書籍も50冊以上の売り上げがあった



願いよ届け

～横田さん夫妻を迎え牧之原市人権講演会を開催～



ブルーリボン運動
2002年に始まった北朝鮮による日本人拉致問題被害者を救出するための運動。青は北朝鮮と日本を隔てる日本海を表す。

北朝鮮による拉致被害者の早期救出を求める「全国統一署名活動」実施日である6月11日、いっしょに拉致被害者の横田めぐみさんの父滋さんと母早紀江さんの人権講演会「ブルーリボンに祈りを込めて」が開催されました。会場は立ち見が出るほどで、約600人の聴講者で埋まりました。

拉致問題について、滋さんは「ここで聞いたことを他の人にも伝え、国民の世論をもっと高めてほしい」と協力を呼び掛け、早紀江さんは先の見えない現状に無念さを感じました。

多くの市民の協力により集まった1474人分の署名は、鈴木一行社会教育委員長から夫妻に手渡されました。